

## 平成 29 年度 第 43 回卒業証書授与式 式辞

早春の息吹が感じられる今日の佳き日に、大阪府立長尾高等学校第 43 回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、日頃より本校の教育活動にご支援をいただいております、地元中学校の校長先生、教頭先生の皆様、そして、本校同窓会、後援会、PTA 役員の皆様方には、ご多用中にも関わりませずご臨席を賜り、誠に有難うございます。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

ご多忙の中、ご列席くださいました保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

今日こうして社会への旅立ちの第一歩として、凛々しい姿で式に臨んでいる様子を見られるにつけ、さぞかしお喜びのことと存じます。

高校生という多感な時期にあつて、保護者の皆様方には、何かとご苦勞もおありであったのではと拝察いたします。そうしたご苦勞が、本日このように頼もしい成長した姿として実を結びましたことに対して、心から敬意を表しますとともにお祝いを申し上げます。

あわせて、これまで本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

さて、先ほど卒業証書を授与しました 266 名の皆さん、卒業誠におめでとうございます。皆さんの卒業を心からお祝いたします。

皆さんは、本校での学びの中で、様々な体験を積んでこられました。

私は、これまで皆さんが授業をはじめとする学習活動や学校行事、部活動や地域との交流活動等に、ひたむきに取り組み、目標に向かってチャレンジする姿をたくさん見てきました。

体育祭や文化祭での皆さんの姿も強く印象に残っています。

体育祭での全力を尽くした競技や応援、創意と工夫を凝らした各団の旗やパネル、そして応援団によるパフォーマンス、どれをとっても立派でした。

文化祭では、体育館のこの舞台上で演劇を発表してくれました。台本作りから、演技、大道具・小道具、照明や音響効果を生かした演出など、総合芸術である演劇に挑戦し、見事にやり遂げてくれました。

これら二つの行事を例にとっても、各クラスの特長、皆さんの個性や創造性、チームワークを存分に発揮してくれました。

これらの活躍に加え、数々の出来事や皆さんと交わした会話などを一つ一つ思い浮かべながら、今日こうして卒業式を迎えられた皆さんのことを思うと、まさしく、本校のめざす生徒像である「誠実、明朗で、友愛と気力に満ちた人物」に確実に成長されました。

新しい世界への旅立ちに当たり、今後更に学業を究め、仕事に就かれる皆さんに、私が大切にして欲しいと思うことを「はなむけの言葉」として送りたいと思います。

それは「三つの情を大切にしたい」ということです。  
情とは「友情」の「情」のことですが、情とは「こころ」です。  
三つの「こころ」を大切にしたいと思います。

一つは、「熱情」です。

「熱情」とは、「自分の信念に基づき、やり遂げようとするこころ」と捉えています。  
私は、学問や研究であっても、仕事であっても、年齢に関係なく、「熱情」を持ってないこと、発揮できないことはとてもつまらないことだと思っています。

皆さんが思い描く夢や希望、目標を実現するためには、まず、「何が何でも実現しよう」と決意することが大切です。

決意をもとに、失敗を恐れず、熱情をもって努力を続けてください。

皆さんが体育祭や文化祭で実践したように、「成功させよう」「良いものにしよう」と、強い意志でやり遂げたことを忘れないでください。その時のこころが、まさしく熱情そのものです。

二つ目は、「愛情」です。

一昨年4月の始業式でお話ししましたが、「愛」は、人が振り返っている姿をかたどった象形文字であり、文字の真ん中に「心」を添え、振り返る心情を表す文字だと説明しました。

「愛情」とは、「人を思いやるこころ」「相手を大切に思うこころ」と私は捉えています。

皆さんにはこれからも、相手の立場になって考えられる人間であり続けてください。

身近な人は当然のことながら、さらに、より多くの人を幸福にできる、ひいては社会の発展に貢献するといった「大きな愛」をもって、学問や仕事に臨んでほしいと思います。

三つ目は、「真情」です。

「真（まこと）の情」と書く「真情」とは、「まことのこころ」、即ち「まごころ」です。

「自分を偽らないこころ」、「謙虚さ」「誠実さ」とも私は捉えています。

まごころを持って人と接し、学問や仕事にも本当の目的を見失うことなく、誠実に向き合ってください。皆さんには、常に明るく正しい道を歩いてほしいと思っています。

しかしながら、先の見通しが立たず苦しむ時もあるでしょう。また、良くない方向に流されそうになることが無いとは言えません。

そうした場合は、謙虚に人の意見にも耳を傾け、自分を取り戻すことです。

初心に帰り、「そもそも志は何であったか」と、自分自身に問いかけましょう。

「まことのこころ」「偽りのないこころ」をもって自分に素直に向き合うことで、自ずと進むべき道は見えてくるものと思います。

近年、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきました。とりわけ、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の動きがインターネット経由でなされたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされています。

こうした状況の中、人としての特性や強みを生かすためにも、私は「人と人とのつながり」「人としての心の持ち方」「心構え」がより一層重要になるとと思っています。

人と人とが関わり合い、知恵を出し合って、よりよいもの、人のためになるものを創りだして行ってください。

皆さんの夢と希望の実現に向けて、「熱情」「愛情」「真情」をもって、失敗を恐れず、果敢に挑戦し続けて欲しいと心から願っています。

卒業生の皆さん、いよいよ新しい世界へ出発です。

皆さん一人一人に対して、できうる限りの支援を惜しまなかった 43 期生の担任の先生方、そして、長尾高校全ての教職員を代表し、卒業生の皆さんに限りない惜別の思いを残しつつ、その洋々たる前途を祝して、式辞といたします。

(皆さん、体に気を付けて、元気で頑張ってください。

卒業、おめでとう。)

平成30年2月28日

大阪府立長尾高等学校  
校長 寶田 康彦